

ニュースをつけると今の世の中異常だらけで、まともなことができません。自らで自浄できない、これは地球で起きていることであり、私たち一人ひとりにも起こっていることです。あなたは自分がしていることがよいことか悪いことか判断できていますか。「デイ・アフター・トゥモロー」という映画があります。映画の中で、異常気象が起これ始めたとき、様々な学者が言いますが、副大統領は政治や経済など目のことだけを考えるべきことをせずに放ったらかしていました。その結果ニューヨークの町に大津波が起これ、たくさんの建物が壊れ、人が亡くなり、大地は凍りついてしまいました。そして副大統領が言うのです。「私たちは地球の資源を使い果たし、自分たちのことだけをやってきた。もう一度、立て直さなくてはならない。」・・・私たちがわかっていて、聞いてはいて、一番大切なことをすっかり忘れて次のことをしていると、あなたの人生の航海の舵をあやまることになります。映画の中で副大統領が、学者たちの声を聞き、決断をしていればたくさんの人が亡くならずにすみました。あなたのやっていることが、本当に意味のあることかどうか考えてください。あなたが責任を負うべき人たちに意味のあることをしていますか。そうでないことに目を向けていけば、一時の気晴らしにはなりますが、将来必ず、後悔する時がきます。アリとキリギリスの話。キリギリスは夏の暑い間に遊んでいたために冬死ななくてはいけなかった、逆にアリは夏、一生懸命働いていたから冬がよかった・・・誰でも知っていることです。しかし人のことはわかりますが、自分のことはわかりません。「また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。」(マタイ7：3)自分の目の梁を見つけなくてははいけません。どんな問題が自分にあるか、そして自分の問題を忘れるために気晴らしでほかのことをする人生をしていないかどうか考えてください。気休めでは意味がありません。今抱えている問題にあなたが真っ向から向き合うかどうか、これがあなたにとって将来大切なことなのです。あなたの決断はあなたのことだけでは終わりません。あなたの後ろにいる多くの人々があなたの決断の誤りですべてを狂わせてしまうのです。あなたの問題だけではありません。体でも、一つの病気を頼っておくと、体全体が悪くなるように、あなたの人生も、一つの問題を放っておくばかりに将来あなたの人生の全ての設計を壊す事があります。だから聖書は言っています。「聞く耳のある者は聞きなさい。」「今と言われているときに、うなじを強くしてはならない」私たちは自分の人生を振り返り見なくてははいけません。そして今だけではいけません。誰でも言われてすぐは「やれる」と思いますが日がたつうちに忘れて気付けば元に戻ってしまうのです。イスラエルの民は40kmの距離を40年堂々巡りしていました。あなたの人生は変化していますか？180度、一ぺんに変われといっているのではないのです。神様が願っているのは、「1日一歩、三日で3歩」です。そして2歩下がっても1歩進んで成長していることが大切なのです。しかし私たちは、5歩ぐらい下がってしまうのです。あなたは後ろに下がっていませんか。失敗は戻せないことが多いのです。気をつけなくてははいけません。(マタイ8：23～27)「イエスが舟にお乗りになると、弟子たちも従った。」(23)あなたの船にイエス様は乗っていますか。私たちは目の前に問題が来るとあたふたしてしまいます。そしてそんなときに出す結論はろくなものではありません。自分のことにかまけ、責任をとらず、何かあったら人のせい、一時の利得に目を向けてしまう、自分の心の安定を求めてしまう、あなたにはそういうことではないでしょうか。そうならないようにするにはいけません。モーセは屈辱に耐えたので立派な民のリーダーになりました。そして40年間荒野で旅をします。民が不平不満ばかりを言うからです。(出エ13：21、22)主がその中で働いていたということです。人生のいかなるときも、主は必ず働いていてくれて、問題があれば、問題を取り除くために、寒ければ火の柱、暑ければ雲を与えてくれました。しかしイスラエルの民たちはそれをすぐに忘れてしまうのです。弟子たちは、問題だらけでしたが、イエス様が乗った船に乗りました。あなたの船にはイエス様が乗っていますか。あなたの人生、あなたの前に一緒に乗った人がいるから、私がいればうまくいくと信じていますか。一緒に乗っている人が解決できる人なら怖がる必要はありません。しかし一緒にいることを忘れ、しかも「ちょっと降りといて」・・・私たちはこれをやってしまいます。イスラエルの民のように不平ばかりに目を向けるのではなく、いつも火の柱で守ってくれる人を思い返してください。そして自分が絶対大丈夫と思っでははいけません。タイタニックの船は、絶対大丈夫だといわれていたために、救命の道具WPほとんど積んでいませんでした。ところが、一人の船員が流氷を見逃したために大きな船が沈んでしまいました。これからあなたの航海の船はぜひイエス様と共に舵をとってください。自分の価値観でやると、問題があれば人を傷つけてしまうし、よい時には傲慢になり人を蹴落とすことになってしまうのです。自分の好きなことばかりして振舞うのではなく、いつもどっちに進むべきかを考えるべきです。人生を座礁させないために①正しい船長と共に。あなたは何のために生き、何をしているかわかりっていますか。なぜと聞かれてわからない、あなたの目の前の問題がどうにもならないのであれば、船長が必要なはず。でも私たちは自分でしてしまうのです。弱いのを認めるのが嫌なのです。あまりにも船長がない船が多すぎます。こういう問題があるときこうしなさいということを聞いてください。(イザヤ30：21)右にも左にもそれではいけません。その時に前に行けという声があるからです。神様はあなたに聞きやすいように語ってくれます。あなたに聞く気があるかどうかです。聞く耳を持つようにしてください。②一人で戦うな。私たちは、孤独は嫌いです。それなのにこういうことは一人で処理しようとしてしまいます。それはプライドがあり恥があるからです。しかし、いいことではありません。みんなで乗り越えることなのです。だから教会があるので。問題があった時こそみんなが集まるのです。教会はあなたの豊かさを見せ付けるところではなく、悲しむものと共に悲しむところです。だからあなたの問題を一緒に祈りあい、解決するのです。私たちは神様に愛され救ってもらいました。だから私たちもそれをしなくてははいけません。あなたの隣に苦しんでいる人はいませんか。一人で戦わないでください。神様が一緒にいるということ、そして神様が与えてくれた家族がいるということをお忘れしないでください。その上で問題から逃げずに戦うべきです。問題から逃げると解決できない大きな問題になります。(イザヤ52：12～15)「その顔たちは、そこなわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。」(14)知恵に満たされていますか。国々の王があなたを見て口をつむぐような存在になっているのでしょうか。いいことだけを求めるのではなく問題があった時にこういう姿になっていけばどんな問題も乗り越えられるのです。回りから見られて優れた人にならなくてははいけません。だから一人で戦ってははいけません。指摘してくれる友がいなことをさびしいことです。③方向を見失うな!!何のためです。「自らのためにいのちを得ようとするものはそれを失い・・・」自分のために生きる人生は今日でやめてください。自分を喜ばせるために生きていないか考えてください。あなたの持ち物で、あなたに与えられたもので、どれだけあなたに任されている人たちに仕えていますか。多くの人々があなたを支え、導いてくれています。その人に感謝し、問題があったときに乗り越えさせてくれた人のことを覚えているのでしょうか。それをすっかり忘れてあなたも自分が自分で生きていく気になっていませんか。自分のものだから自分で使うんだ、そんな価値観になっていないのでしょうか。あなたの人生が何も残らない人生でよいのでしょうか。あなたは目標を失っていませんか。(ヤコブ3：2～4)目標があれば進まなくてはいけないことがわかります。そうしたときに大きな問題が訪れても余分な言葉を発することなく間違った方向に進まずに正しい方向に進めるはず。そうすれば小さな舵で大きな座礁しそうな船が変わるのです。だから「あっちにいけ」という言葉に耳を傾けましょう。いいことばかりを言う人に目を向けてはいけません。慰めを言ってくれる人があなたを導いてくれる人ではありません。あなたを導くのは、時には厳しく、時には励まし、あなたの共にたたかってくれ導いてくれる人です。その人はあなたのために命をかけて十字架に架かって死んだのです。この人の声に耳を傾けることで、栄光を返すことになるのです。自分の悟りに頼らず、見るべきものをしっかり見つめて進みましょう。そうでなければあなたに任された多くの人と一緒に座礁してしまいます。そしてあなたの人生の計画も沈んでしまいますよ。(要約者：岩崎祥誉)